

学部長 中村 浩也

本学の「教育実践紀要」は本刊で第6号をむかえる。教育実践研究における代表的なキーワードは「実践知」に象徴されるが、これは単なる理論や抽象的な概念ではなく、現場での経験や実際の行動に根ざした知識を指す。本紀要においても、これまで日々の授業や取り組みを通じて獲得した具体的な知見を深化し、学際的な視点を共有することの重要性が多様な視点から論じられてきた。

研究者や教育関係者における「実践知」は、理論的なアプローチだけでは把握できない教育の深層に迫る手段であり、実体験に基づいた知恵やノウハウを通じて得られた理論的枠組みと現場の教育実践が相互に補完し合うことを目指している。これらの取り組みは、教育者がより効果的で意義ある教育活動を実現する手助けとなるものである。

本号においても、教育実践を通じて抽出された「実践知」を分析し、教育者と学習者の双方が実践の中で学び、成長する過程に焦点を当てている解釈しようとする報告が計15本寄せられている。とりわけ、教育現場で直面する具体的な問題に焦点を当てただけでなく、異なるバックグラウンドを持つ研究者らが相互交流し、多様な視点からのアプローチを提供することを通じて、より広範な知見の蓄積に挑戦している。これらの取り組みの中で生まれる「実践知」は、教育環境をより良いものにするための手掛かりになることを確信している。

最後に、本紀要が教育実践に携わる者にとって有益な情報や示唆を提供し、更なる研究と実践の連携を促進する一助となるとともに、学ぶ喜びを分かち合う場になることを期待したい。